

種豚改良技術確立試験

中村妙・吉田繁樹・相馬由和・大石仁

Establishment of Improvement Technique for Breeding Swine

Tae NAKAMURA, Shigeki YOSHIDA, Yoshikazu SOMA, Hitoshi OHISHI

要 約

現在の肥育豚はLW・Dの三元交雑が主流となっており、その基礎となるランドレース種は非常に重要であり、高い繁殖能力、発育能力、優良な資質が求められている。

このため、優良なランドレース種豚を作出し、県内の養豚農家に種豚の配布及び精液の譲渡を行うとともに配布先農家の繁殖能力や産肉能力の情報を得ることにより広域的な改良増殖を図る。

平成20年度は21腹の分娩で子豚209頭を生産した。育成豚57頭を払い下げし、精液は1頭分を譲渡した。

キーワード：ランドレース、改良増殖

緒 言

我が国へ最初にランドレース種が導入されたのは昭和35～36年である。まだ大型品種が普及していなかった当時は飼養管理の難しさや繁殖障害が多く出るなどの理由で敬遠されることもあったが、品種の特徴が理解されたことや高い産肉能力により急激に増加し、中ヨークシャー種やバークシャー種等の中型種からランドレース種をはじめとする大型種へ飼養形態が移行するさきがけとなった。その後、改良が進み日本に定着したランドレース種は三元交雑の基礎となる種雌豚として広く用いられるようになった。昭和50年代以降はデュロック種が止め雄として普及し、現在でもLW・Dの三元交雑が肉豚全体の8割近くを占めている¹⁾。

三元交雑におけるランドレース種の役割はF1母豚生産であり、基礎となる部分である。そのため、高い繁殖能力、産子の発育能力、強健性を子豚に伝えなければならない。

高い能力のランドレース種を増殖・配布することは、養豚経営の安定向上に大きな影響を与えるものと考えられる。

この試験は当研究所の外から優良な種豚や精液を導入してさらに優れた種豚を作出し、それを県内の農家に払い下げることにより、広域的な改良効果を生み出すことを目的とする。

材料および方法

1 供試材料

種豚改良に用いた種豚は以前から当所で飼養していたランドレース種。

基本計画としては常時、種雌豚15頭、種雄豚3頭を飼養し、これらの豚を用いて改良増殖を実施した。

2 調査項目

1) 繁殖成績

生産頭数、1腹当たり哺乳開始頭数、離乳頭数、離乳時育成率、生時体重、3週齢体重

2) 産肉成績

一日平均増体重、ロース断面積、背脂肪層の厚さ

3 育成豚の選抜

検定成績、体型並びに肢蹄の状況等を考慮して行った。

4 種子豚及び育成豚の払い下げ

種子豚は4～5ヶ月齢、育成豚は7～8ヶ月齢で行い、精液の払下げは、随時実施した。

結果および考察

繁殖成績については、21腹分娩し209頭の子豚を生産し、1腹当たり哺乳開始頭数は10.0頭であった。離乳子豚数は169頭で育成率は90.4%であった。また、子豚の生時および3週齢時平均体重は、それぞれ1.46±0.32 kgと5.16±1.40 kgであった(表1)。

産肉成績については、現場直接検定により、雄3頭及び雌14頭を実施した(表2)。

雄3頭の直接検定成績の平均は、1日平均増体重は980.0 g、ロース断面積は29.6 cm²、背脂肪層の厚さは1.6 cmであった。

雌14頭の直接検定成績の平均は、1日平均増体重は773.7 g、ロース断面積は27 cm²、背脂肪層の厚さは1.6 cmであった。

育成豚は、県内の農家14戸に対し、計57頭(雌57頭)を払い下げた。精液は、農家1戸に1頭分を

譲渡した。

今回の成績は、当所における過去の成績と比較すると、産肉成績については、雄の1日平均増体重とロース断面積については、高い成績だったものの、その他の成績については平均並みかやや低い傾向が見られた。繁殖成績は、全国平均²⁾と比較したところ、同等か良好な成績であった。今年度は、分娩後の圧死による事故が多かったため、分娩前後の管理に留意するとともに、豚の能力と血統(系統)との関係を調査し、選抜改良を進める。

参考文献

- 1) 日本の養豚 編集部(2000) 本誌に見る養豚50年の歩み 日本の養豚2000年1月号
- 2) 社団法人 日本養豚協会 養豚基礎調査全国集計結果(平成20年度)

表1 繁殖成績

分娩腹数 (腹)	生産子豚数 (頭)	哺乳開始頭数 (頭)	1腹当たり哺乳開始頭数 (頭/腹)	離乳子豚数 (頭)	育成率 (%)	生産子豚平均体重 (kg)	3週齢時平均体重 (kg)
21	221	209	10	189	90.4	1.46±0.32	5.16±1.40

表2 産肉成績

	検定豚(雄)		検定豚(雌)	
	平成20年度	平成17~19年度平均	平成20年度	平成17~19年度平均
検定頭数	3	11	14	33
1日平均増体重(g)	957.7±122.3	865.5±53.6	771.5±65.2	780.0±33.6
ロース断面積(cm ²)	29.6±2.2	28.2±3.8	27.0±4.5	32.4±4.4
背脂肪層の厚さ(cm)	1.6±0.2	1.7±0.1	1.6±0.3	1.7±0.2